

# 西南風

# 西南小っ子の良さ

21日(土)は妙泉寺公園でラジオ体操でした。地域の方々の取組が子どもの笑顔を引き出しました。本当にありがとうございました!



今日で夏休みも一週間が経ちました。毎日、ラジオ体操帰りや学童に行く子どもたちと出会います。みんな明るい笑顔の夏休み序盤です。さて今回は、学期中に印象的だったけれども書き切れなかったことや、夏休みに入ってからことを書きます。

まずは、七月十八日(木)にあった西南中学校の合同公開授業研究会です。小中三校がそれぞれ公開授業を見合うのです。小中連携による学力向上を目指した取組の一つです。本校は四年四組と六年四組の算数の授業を公開しました。西南小の今年の研究テーマは算数に絞っています。理由はシンプル、西南小の子どもたちは算数を苦手とする傾向にあるからです。

四年四組は小数の筆算でした。みんなで筆算のやり方を考えていきますが、その過程はコントのようです。担任の田中雄也教諭が発問をする前から、勝手に子どもの手が上がり、田中教諭が「まだ何にも言っていないんだけどね」と返すものの、「僕は先生が今から言うことがわかってます」と挙手を続けます。それが複数人いるのです。しかもその状況が何回もあります。挙手時に鼻息が荒く、「僕が」「私が」と意欲がほとばしる児童が複数人いて、授業を引っ張りました。最初はその児童らが発言の中心でしたが、

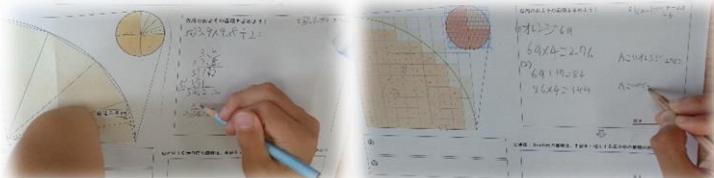
田中教諭のあしらいも見事で、静かに意欲を秘めた児童にも発表の機会を与えていきました。最後まで授業を見ていませので、四年四組の子どもたちが小数の筆算のやり方が定着しているかはわかりません。四年四組の保護者の皆さんは、ぜひご家庭で小数の筆算をさせてみてください。悲惨なことにはならないでしょう、筆算だけに。



コント会場となった4年4組

さて、次は六年四組です。六年生は円の面積でした。大きく二通りのやり方で円の面積を求めます。最終的には一辺が10cmの正方形の何倍かを出すことになっているので、より細やかに面積を割り出した児童の答えは、円周率に近づいていくのです。授業者は、体育主任でもある担任、本田華子教諭です。下写真のようにマス目を数えたり、二等辺三角形の面積を求めたりしても、余白が残ります。課題が難しいので二、三人で一緒に考える児童もいれば、単独でじつと取り組む児童も。さすがに四年生よりもしつとりとした、それ

二つのやり方で考え中!



いて真剣な学びの雰囲気です。それぞれの考えを出し合う時間になりました。みんな堂々と発表します。四年生から幼さを取り除くところかなと思えました。しかし、課題に取り組んでいる時間に、ちよっぴり声もかけながら個々の児童を見て回った時、みんな返す表情は笑顔なのです。難しくても笑顔。その時確信しました。今年の西南小は算数の学力が上がると。この部分を本校研究主任の渡辺俊介教諭を筆頭に各担任が読んだら、鼻息が荒くなるでしょう。

最後に、本日あったこと。朝、学校そばのゴミ捨て場がカラスに荒らされて散らかってしまいました。ラジオ体操帰りの近所の子どもたちが、わざわざ私に知らせてくれました。知らせてくれるのはありがたいけれど…。正直「私がやるの?」という気持ちで校長室の窓から見ていたところ、おそらく自分の家のゴミを出しに来たであろう少年が、散らかった生ゴミを集め始めました。誰も見ていない場面だったけれど(私は見ていました)、ほっといて去ることもできたのに、その状態を見ることができなかった少年の姿に、いてもたってもいら